



2023年1月4日

各位

会社名 株式会社ファンペップ  
代表者名 代表取締役社長 三好 稔美  
(コード番号: 4881 東証グロース)  
問合せ先 取締役管理部長兼 CFO 林 毅俊  
(TEL. 03-5315-4200)

### 業績予想の公表に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、以下のとおり、2022年12月期（2022年1月1日～2022年12月31日）の業績予想を公表します。

当社は、2022年10月1日付でアンチエイジングペプタイト株式会社を子会社化したことに伴い2022年12月期第4四半期より連結決算に移行するため、単体業績予想に加え、連結業績予想も記載しております。

#### 1. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

連結財務諸表は2022年12月期第4四半期から作成しますので前期実績数値はありません。公表した連結業績予想数値もありませんので増減額及び増減率の記載は省略しております。

(単位：百万円)

	事業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
業績予想 (2022年12月期)	1	△1,171	△1,178	△1,178	△61円37銭

#### 2. 2022年12月期の単体業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

当社は、これまで単体業績予想を公表していなかったため、増減額及び増減率は前期実績に対する数値を記載しております。

(単位：百万円)

	事業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (2021年12月期)	126	△745	△679	△682	△39円58銭
業績予想 (B) (2022年12月期)	1	△1,162	△1,168	△1,171	△60円98銭
増減額 (B-A)	△125	△417	△489	△489	—
増減率 (%)	△99.2	—	—	—	—

### 3. 業績予想の概要

2022年12月期（以下、「当期」）において、当社は、SR-0379及びFPP003の臨床試験、FPP005の前臨床試験等を実施してパイプラインの開発推進を図るとともに、抗体誘導ペプチドの創薬プラットフォーム技術を用いて新規パイプライン創出に向けた探索研究に取り組んでまいりました。

このように事業を進めた結果、当期の単体予想は、事業収益1百万円（前期は事業収益126百万円）、営業損失1,162百万円（前期は営業損失745百万円）、経常損失1,168百万円（前期は経常損失679百万円）及び当期純損失1,171百万円（前期は当期純損失682百万円）を見込んでおります。主な内容は、以下の通りです。

事業収益は、化粧品分野向け等の機能性ペプチド販売額1百万円を計上する予定です。

前期は、提携製薬会社からのSR-0379の開発マイルストーン収入を125百万円計上しておりましたが、当期は提携プロジェクトのSR-0379及びFPP003の開発マイルストーン等のイベントがなく、医薬品分野の収入はありませんでした。次期（2023年12月期）以降は、現在進めている提携プロジェクトの開発進捗に伴う収入や新規提携に伴う一時金等の収入を医薬品分野の収入として計上する計画です。

事業費用は、前期比291百万円増加の1,163百万円を見込んでおります。

主にSR-0379の第Ⅲ相臨床試験費用及び抗体誘導ペプチドの開発費用等の増加により、研究開発費が前期比260百万円増加の922百万円となる見込みです。その他の販売費及び一般管理費は前期比31百万円増加の240百万円を見込んでおります。

なお、連結業績予想は、単体業績予想とほぼ同様の内容を見込んでおります。

第3四半期決算短信公表時点（2022年11月14日付公表）においては、事業収益が新規提携候補先等との交渉状況等に依存しており、その不確実性を考慮すると合理的に算定することが困難なため業績予想を公表していませんでしたが、2022年12月期における事業収益が上記の見込みとなりましたので業績予想を公表しました。

また、同決算短信においては、単体の研究開発費を1,200～1,600百万円と見込んでおりましたが、SR-0379及びFPP003の臨床試験、FPP005の前臨床試験等の研究開発に優先的に取り組んだこと、これらの開発プロジェクトが概ね順調に進捗したことなどから、研究開発費は上記の通り減少しました。

以上